

会 報 わ か く さ の 風

No.5

社 会 福 祉 法 人 戸 田 わ か く さ 会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>



交流会の様子

共に歩む事を大切に、法人の存在価値を高める実践を！

人の知恵には優れたものがあります。新年を迎えると、今年、1年がんばろうと新しい気持ちになります。そして、4月から新年度の始まりです。官公庁も新予算のもと新年度事業がスタートします。法人も同様です。3月31日と4月1日のたった一日の違いで新しい気持ちになります。皆様はいかがでしょう。

さて、法人は27年度から31年度までの中期計画を作成し、計画的に事業展開したいと考えています。福祉の環境の厳しさは増えています。しかし、福祉の歴史は常にその厳しさを乗り越えながら、障害のある人たちの人権、生活を守ってきました。その精神に揺らぎはありません。

中期計画では指定特定相談事業所の立ち上げ、居宅介護事業所、就労継続支援B型、グループホームの新規整備と拡大、創作活動の事業化などを視野に入れていきます。目白押し之感がありますが、障害のある人たちの暮らしと働くこと

をあたりまえにしていくには、包括的かつ継続的な社会システムが必要です。優先順位をつけて検討していきます。その事業を支える職員の定着と確保、育成が大きな課題となっています。法人経営の基盤は人財育成、人財確保です。で、抜本的な対応が必要と考えています。

先日、私のところに1枚の写真が届きました。その写真には若いご夫婦とお子さんの微笑ましい姿が映っています。二人は元職員です。二人は協力し合ってゼロから作業所を立ち上げ、この度、NPO法人化しました。退職職員のしなやかで力強いエネルギーに感服しています。このような職員をきちんと受け止め、法人を担う職員に育成していけるかが、法人の課題の一つでもあります。課題は可能性でもあります。新しいスタートを切りたいと考えています。

戸田わかくさ会
統括施設長

竹嶋

紘





★新始動！新たな仲間と共に わかくさ

春風が心地よい季節になりました。時が過ぎるのは早いもので昨年入所をされた方達もわかくさへ通い始めて一年が経ちました。卒業したばかりでまだあどけない顔つきだった人や不安そうな顔をしていた人もわかくさでの仕事や様々な事を経験し、また社会人の先輩達と接した事ですっかりと逞しい大人の顔つきになりました。

そして今年度も特別支援学校の高等部を卒業されたとてもフレッシュな5名の仲間が加わりました。一年を過ぎたばかりの新米先輩もベテラン先輩の様に新人5人を導

いてくれればと思つていきます。そして利用者とともに職員も成長していきたいと思つています。

★3つの取組み



今年度、わかくさが力をいれて取り組みたいと考えているのが、表現活動や健康管理そして地域住民との関わりをより深めていくことです。

表現活動については以前から不定期に行つてはおりましたが、今年度は日課として定期的に行い、充実させて行きたいと考えています。また、その作品を展覧会などにも出展して行きたいと考えています。

次に健康管理ですが、加齢や障害の重度化への対策として、戸田市スポーツセンターで運動を行つたり、わかくさ内でストレッチなどの健康体操を行うプログラムを考えています。

地域との関わりにつきましては、より一層繋がりを深める為に地域清掃を積極的に行う事から始めたいと考えています。また昨年11月にわかくさは戸田市より福祉避難所に指定されました。この事も踏まえ、より一層地域に

わかくさを知つて頂けるよう取り組んでいきます。(久保田)



新年度、ゆうゆうはこれがんばります！

福祉作業所 ゆうゆう

ゆうゆうは新しい仲間の入所はなく、昨年度と同様の25名でスタートを切ります。

大きな改革や変化はないですが、ゆうゆうの新年度はこれ！と意気込んでいくつかのことについてご紹介したいと思います

①新たな商品を！

定番商品どらやきに加え、もう一つ柱になる商品を開発したい：でも、どんなものが良いのか：等々なかなかいい案が浮かばず、ゆうゆうのメンバーだけではなく、ご家族や法人の関係の方々、また菓のプロの方などにご意見を伺いながら、みなさまに愛される新商品の発売にこぎつけたと考えています。

②ゆうゆうをもっと知ってもらいたい！

多くのみなさんから美味しいと評判のゆうゆうの和菓子ホームページで紹介したり、創作活動の成果や日々の活動の様子をもっと地域の方々に見ていただける掲

板のようなものを是非作りたいと考えています。

③創作活動の発展！

少しずつ活動の幅を広げている創作活動を、今年度も積極的に展開させたいと考えています。あわよくば製品化、少なくとも様々な作品展などへ出展し、地域の方々と交流を深めていくことが今年の目標です。

④楽しく、夢をもって！

毎日の仕事や仲間との交流、イベントなどを、利用者、職員だけではなく、ご家族や地域の方々とひとつになつて、楽しく行つていきたいと思つています。

今年度も、「いつも笑い声の絶えない楽しいゆうゆう」目指して頑張ります！

(浜田)



就労継続B型から就労移行へ

就職へチャレンジ

福祉作業所 かかやき



かがやきは就労継続B型と就労移行の2つの機能があります。かがやきで仕事を頑張るのが就労継続B型、就職をめざし取り組んでいるのが就労移行です。

◆Mさんの思い

Mさんは、就労継続B型での掃除の仕事を通じて自信をつけ、「就職を目指したい！」と就労移行の体験を行っています。

Mさん「就労移行のみんなが就職したのを見て、僕も頑張りたいと思います。就労移行の訓練は、最初は難しかったけど少しずつ出来るようになってきました。

かがやきの(就労継続)Bでも最初は出来なかった掃除の仕事も、頑張ってきたように思っています。今までみんなと一緒に仕事をして

たから、たまにまたみんなと仕事をしたいなあとと思うけど頑張って就職したい。誰かを元気に出来るような仕事に就職したいです。」

平成27年度は、もっとたくさんの方が就職へチャレンジできるよう取り組んでいきたいと思えます。

ちなみに：

この会報はかがやきの利用者が仕事として作っています。折り・帳合・シール貼りなどなど、一つ一つ頑張つて作っています。ぜひたくさんの方に読んでいただけたら嬉しいです。

(寺内)



ホームの暮らしを豊かに グリーンクラス

平成27年度、グリーンクラスでは、26年度同様に安心して暮らせる雰囲気作りを念頭に置きながら、利用者が中心となって暮らしを作り上げて行けるように支援を行っていきます。

ホームに入居されている利用者の方は、長い方で5年目を迎えます。この間、様々な取り組みの中から『ホームで暮らすこと』について改めて見直して行くこともありました。

皆初めて親元から離れた生活を送る中で、利用者個々の暮らしを尊重しつつ、共同生活を送る為の約束事を、利用者自身で決めて行ったり、休日の過ごし方を考え合ったりしてきました。

そんな中、グリーンクラス上戸田とグリーンクラス第二上戸田の利用者から『日帰りでも良いからホームの皆と旅行に行きたい』と希望が出てきました。

日頃一緒に生活する人達との旅行は、毎年実施している各事業所の旅行とは違う体験が出来るのではないかと

思い、平成27年度に実施していきたいと考えています。

現在、各ホームの利用者を中心に、旅行の目的や行き先、費用などを話し始めています。

途中経過や旅行報告などHome通信等で随時ご報告して行きたいと考えていますので、ご期待ください。
(和田)



ホーム宿直者募集

現在、グリーンクラスでは、障害のある方達の生活を支援する職員を募集しています。(出勤日数・出勤日等、ご相談に応じます。)

詳しい勤務条件等は、法人本部にお問い合わせください。

法人本部048 (432) 8198

豊かで安心して暮らせる地域作りを目指します！

身近な相談窓口、障害者生活支援センターわかば

わかばでは、暮らしの中で心配事から福祉サービスの利用に関する事など様々な相談に応じています。

また、障害を持つ方やそのご家族と一緒に学んだり楽しめる集いの場を作りたいと思います。



◆どうだ！わかばに聞いてみよう

「障害福祉サービスを利用したいけど、どうしたらいいの？」

「〇〇に困っている」

「将来の事が不安」等々・・・

何でもお気軽にわかばにご相談・お問い合わせください。

情報提供や手続きなどの支援、時には一緒に悩み考えながら解決のお手伝いをしていきます。

◆わかばニュースを発行します。

手続きの方法や、新しい制度など障害福祉に関する事をわかりやすくお知らせします。

今年度から「サービス等利用計画案（計画相談）」の提出が必要となりますので、その手続きや流れからお伝えしていきます。

◆話そう！楽しもう！繋がろう！

昨年度は、『親の5年後子ども5年後 一緒に考えよう』勉強会を6回行い、地域での様々な暮らし方（サービスの活用）や、将来のお金の事を学んだり、県内数か所のグループホームの見学会を



H26.6月 第1回勉強会
様々な暮らしのあり方について

実施しました。ご家族同士が情報交換をしたり、想いや悩みを共有し話し合える場として、今後も身近なテーマで皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

また、余暇や趣味の活動プログラムを企画し、当事者の方々も楽しく集える場を作りたいと思っています。

それぞれの企画は随時ご案内させていただきます。

一緒に考え、支えあえる繋がりを広げ、豊かで安心して暮らせる地域を作っていきましょう(猪野)

よりよい就労支援を目指して

障害者就労支援センター

戸田市障害者就労支援センターでは、昨年度も様々な背景をお持ちの方を支援してきました。そのうちの一人Oさんは、精神疾患のある40代の女性です。長い在宅生活の後、晴れて商品管理の仕事に就くことができました。

◆「辞めたい」から「頑張ります」へ

就職してからもOさんは、困ったことがあると、「辞めたい...」とセンターに電話をくれます。先日は、「お店の掃除が大変で身体が痛くなり、もう続けられそうもない、辞めたい」と暗い声で電話があり、職員と電話で10分位話をしました。

Oさんが一生懸命頑張っていることは、店長も評価していること、Oさんは少し頑張りすぎてしまうから、時には、気持ちを楽に仕事をするとよいことなどをこちらが話すとき最後は明るい声で「ありがとうございます」と電話を終えました。



H27.1月 第5回勉強会
講演会DVD鑑賞と意見交換



H26.9月
グループホーム見学（東松山市）

◆道のりを共有する

今年度もまた高校を卒業後見事に就職を果たしたフレッシユな登録者がいますが、就労支援センターの登録者は、年齢や歩んできた人生も様々です。

特別支援学校在学中から希望の会社に就職することを目指していた方、普通学校卒業後手帳をとり障害のことを開示して就職を目指す方、職場に馴染めず退職し、一緒に再就職を支援して欲しいと希望される方など、どの方にもそれぞれの違った道のりがあります。その方の考え方が、その方の歩んできた道のりを映し出していることも少なくありません。

私たちは、単に社会常識を押し付けるのではなく、その方がそう考える背景を共有し、尊重しながら、その人らしい就労支援や定着支援ができるよう、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思えます。
(稲葉)



当事者の働くことを支える

く分かりやすい支援の取り組み

障害者就業・生活支援センターみなみ

私が現在関わっている方でグループホームに住んでおり、地元のスーパーで品出し、清掃業務を行っている方がいます。年度が変わることをきっかけに一人暮らしと転職活動を行っています。新しい環境での生活を送っていくため、仕事だけではなく、生活も支えていく必要があります。

生活と仕事の両面が大きく変化していくなかで、大切なことは本人の状況を把握するためのアセスメントです。また当センターに登録したばかりなので、みなみの役割や支援内容を理解して頂くことも大切です。

昨年度はみなみと戸田市障害者就労支援センターと共同で業務の標準化に向けて検討を行ってきました。職員の質の向上と支援の標準化に向け、インテーク資料の新たな作成、アセスメント票、個別

支援計画書の見直し、企業向けの事業説明資料作成などに取り組んできました。

口頭だけの説明ではなく、視覚的資料を使い、本人や関係機関にも分かりやすいものとなるように試行錯誤しながら作成しました。

今年度は、標準化のために作成してきた支援マニュアルを、実際に使用しながらバージョンアップしていき、職員一人ひとりが良い支援を目指し、当事者の就業生活を支えていきたいと思えます。
(新井)



わかくさの仲間

★わかくさ会では、今年度11名の新しい仲間を迎えました。

平成27年4月3日 合同入所式が行われます。

- 【かがやき】6名 (男性3名 女性3名)
- 【わかくさ】5名 (男性4名 女性1名)





平成26年度の交流会の様子。
最後には、皆さんで大合唱をしました。



今年も法人利用者・職員が一堂に集まる『戸田わかくさ交流会』を、2月6日(金)に南浦和にあるベルヴィ武蔵野で盛大に開催しました。



平成18年、初めての交流会の様子。
会議室の一室を利用してケータリングで食事をしました。

■**これまでの取り組み**
この会は、戸田わかくさ会が「福祉作業所ゆうゆう」を運営するに当たり、「わかくさ」「ゆうゆう」の事業所間で合同の行事を行い、法人内のお利用者・職員の交流と日頃お世話になつていられるボランティアさんへの感謝を目的として行われました。



見慣れない職員に、驚きを隠せない利用者の表情が印象的でした。うまた、ゆうゆうでは女性利用者向けに『メ

初回は総勢60人、福祉青年会館の一室を借り、出前料理をバイキング方式で食べながら、事業所間の交流やボランティアさんとの時間を楽しみました。
参加後に感想を聞いた所、「もつと美味しい食事がしたい」「お洒落をして、出掛けたい」「また、やりたい」と多くの利用者から声が上がりました。法人行事として毎年開催することになりました。

■**各事業所の取り組み**
「お洒落をして、美味しい食事がしたい」と言う利用者の希望を実現する為、様々な取り組みも行いました。
わかくさでは『お洒落って、何だろう?』と題して、職員がスーツ・ネクタイ姿を利用者の前で披露しました。日頃

男性利用者向けに『ネクタイの結び方講座』を行い、お互いに素敵な姿になったことを楽しんでいました。
かがやきでは、事前練習を熱心に行い、当日素晴らしい司会や素敵なエスコートをしてくれました。

■**みんなで祝う喜び**
さらに会を重ねていく中で、その年に成人を迎える利用者のお祝いや、就職した利用者のお祝いを法人利用者・職員一同で喜び、社会人としての第一歩を歩んで貰う目的が加わりました。気が付けば交流会参加者は150人を超え、大きな恒例行事となりました。

■**課題と新たな形を目指して**
しかし、その反面、大勢の人が苦手な利用者や、いつもと違う場所に行くことが苦手な利用者など、参加が難しい利用者も出てきています。
今後、参加利用者全員が楽しめる『戸田わかくさ交流会』の新しい形を目指して取り組んで行きたいと思っております。

(和田)



地域で支え合う

～公開研修～

平成27年1月17日(土) 戸田市
 商工会館において、今年度の法人
 公開研修会が、60余名の御参加を
 頂き、開催されました。

今年度の研修テーマは、
 「地域で支え合う」

～地域で創る障害者福祉～
 講師は、埼玉県相談支援専門員
 協会代表の藤川雄一氏。そして、
 体験発表講師として、平田敦子様、
 永島太様より、貴重な体験談を、
 お話頂きました。

平田様の母親としての強い愛情
 と葛藤に満ちた子育てお話は、私
 達の心に響く内容でした。永島様
 の、正直でユーモアのあるお話か
 らは、地域の中で自分らしく生き
 ている姿が目に見え、心よかったです。
 藤川氏の講義では、「地域で共
 に暮らしている生活者として、お
 互いが見守り見守られる関係であ

る」ということを学びました。

参加者からのアンケートでは、
 「地域福祉について考える良い機
 会になった」

「福祉関係者から社会に近づく事
 が必要だと感じた」

「普通の生活者としての視点を持っ
 て支援する事が大切」

「事業所の中だけではなく、日常
 の生活の様子を、もっと知らなけ
 ればいけないと思った」

などの声が多数ありました。
 講師の皆様、そして、ご参加頂
 きました皆様、有難うございま
 した。
 (山本)



日頃の実践を通じて

～障害児・者実践交流会～

2月21日(土)に戸田市新曽南
 町にあるさくらパルにて障害児・
 者実践交流会を開催しました。こ
 の会は戸田市内の事業所に実行委
 員会立ち上げを呼びかけ、(社福)
 戸田蕨福祉会と(社福)戸田わか
 くさが運営しました。研修には
 両事業所の職員、家族だけでなく、
 地域の様々な事業所職員もご参加
 いただき、100名程の研修会と
 なりました。

今回の研修は「生涯を通じた支
 援」をテーマに、所沢市立プロペ
 ラの施設長鈴木喜代子氏に基調講
 演を、市障害福祉課高木健吾氏よ
 り戸田市の障害福祉についてご講
 義いただきました。

また、実践発表として、あすな
 ろ学園指導員山中山さんより幼児期
 の事例を、福祉作業所ゆうゆう堤
 さんより青年期の事例を、そして
 障害者生活支援センターわかば高
 野さんより高齢期の事例を発表し
 ていただきました。

基調講演では、「利用者の願い、
 思いに共感して寄り添うことの

切さ」を経験に基づいてお話して
 いただきました。研修後のアンケ
 ートにおいても「大変勉強になった」
 「一人ひとりのライフステージに
 おける支援の現状が良く分かり、
 非常に参考になった。」とたくさ
 んの方が有意義に感じてくださ
 いました。

是非、27年度も、たくさんの方
 業所と繋がりながら第2回の障害
 児・者実践交流会を開催したいと
 考えています。ご期待ください。
 (石川)





滋賀県まで行き、自身の作品に再会してご満悦の水村さん

実が融合した町のジオラマ。このたび2月21日から3月22日までの約1か月間、滋賀県の近江八幡市で展示されました。展示会の名前は『オール・ブリュット★アート★日本2』。近江八幡市内にある古民家や商店、伝統的な建築物やミュージアムなどを会場として町ぐるみでおこなわれた展覧会です。水村さんの作品は、近江の名家の古民家『カネ吉別邸』で展示されました。(清水)

わかくさ会のアーティスト

埼玉から滋賀へ!
水村作品が関西進出!

ゆうゆうの水村英喜さんが自宅で9年以上もの歳月を掛けて制作を続けている、空想と現実

どら焼きからの出会い

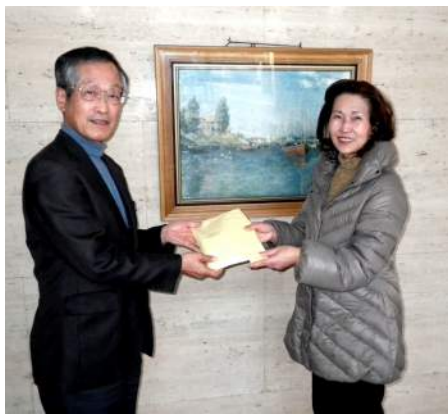
2月1日に『新春ハーモニカチャリティーコンサートin戸田』が文芸会館大ホールにて開催され、ホーム入居者・関係者が素敵な演奏を楽しむとともに、ホール入口での販売ではアート作品多数と320個のどら焼きが完売となりました。皆様へ心より御礼申し上げます。



寄付御礼

実は、この出来事は主催者の方が「福祉施設が作っているどら焼き」にイベントで出会ったことから始まります。どら焼き製造のゆうゆうを経て法人に話が合った時は「ありがたく参加を即決！」しました。なぜなら「ありがとうございました」というコンサートin「障害のある人が『本物の演奏』に触れること」や戸田わかくさ会の活動や商品を広くお伝えすることが可能となるからでした。

嬉しいことは続きます。当日、受付に募金箱が置かれ来場者から続々と善意が寄せられ、更に出演者やスタッフの善意も加わり、その全額を戸田わかくさ会へ「寄付」していただくことになりました。その使途は、各事業所の利用者自治会等で話し合っ決めていく予定となっております。



(草柳)



☆法人の主な予定☆

4月3日(金)
戸田わかくさ会
合同入所式



編集後記

新年度を迎えた第5号は、「気持ち新たに頑張ろう」というわかくさ会の意気込みを特集しました。フレッシュな仲間と共に、新鮮な気持ちで頑張りたいと思います!
これからも「わかくさの風」は、わかくさ会の活動や仲間たちの姿をお伝えしていきます。(猪)

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ

(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021 戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298